

1259

特務艦能登呂研究報告

4.

教育局

軍務局

1260

能登呂機密第

二號ノ二三

大正十五年十二月三日

能登呂特務艦長北川清

海軍大臣官邸 殿

一軍鳩訓練實施經過概要並所見別紙一通
右報告ス

第一号 (別紙一通添)

第一級長

官員

田

田

終

檢査

官

海

青七日
軍

15.

15.

軍鳩訓練實施經過ノ概要並所見

一實施經過ノ概要

大正十四年十一月本艦ニ艦上鳩舎ヲ設置シ軍鳩
實驗委員トシテ士官三名ヲ指定シ外ニ兵二名ヲシテ
常時之カ飼育訓練ニ從事セシメタリ

本年度中實施セシ主ナル事項左ノ如シ

(一)飛行機上ヨリ行フ放鳩

(二)艦船ヨリ行フ放鳩

(三)陸上各方面ヨリ行フ放鳩

(四)幼鳩近距離帰巢訓練

(五)日施放鳩

等ニシテ特ニ七八月ノ期間ハ軍鳩ノ訓練期タルト共ニ艦

隊、戦技時期ナリシカハ、積極的ニ出勤艦艇ヲ利用シ
砲戰中、放鳩或ハ機上放鳩ヲ實施スルコトヲ得タリ
ニ成績

任務放鳩帰巢成績左表、如シ

三月	月	回数	最大巨商	帰巢放鳩数 / 放鳩数	陸上放鳩		機上放鳩	
					回数	最大巨商	回数	最大巨商
三月	三月	六	一五料	10 / 109	二	三〇	二	四
七月	七月	七	四	74 / 74	二	四	七	八
六月	六月	三	三料	38 / 38	四	四〇	一〇	一四
八月	八月	三	七	17 / 17	二	三〇	二	四

遠巨商放鳩訓練

八月	七月	六月
五	三	四
三〇	八	一五
33/39	61/68	64/65

三日施放鳩
毎日勵行

三所見

(1) 特設航空母艦ニ於ケル軍鳩ノ價值

特設航空母艦ニ於ケル主ナル軍鳩ノ利用法トシテハ

(一) 飛行機ノ不時着水ノ際急報用トシテ使用

(二) 飛行機ヨリ母艦ニ對スル補助通信

(三) 他艦船ヨリ母艦ニ對スル補助通信

(四) 飛行基地ヨリ母艦ニ對スル通信

等ニシテ(一)ノ場合ニ際會シ實際使用セシコトアレ共帰業

セシモノナリ。遂ニ其ノ効果ヲ認メス。(三)ノ利用法ハ多数回ニ
 互リ之ヲ實施セリト雖本艦ノ對航空機無線通信ハ
 確實ナリシ為補助通信、必要ヲ認メス。從テ機上放
 鳩ニ依テ效果アリト感セシト僅少ナリ。(四)ノ利用法トシテ
 ハ佐伯灣ニ於ケル戰技中ノ力實施ニ努メ戰技施行
 海面ノ天候風向風力海上ノ模様等飛行實施ニ必要ナ
 ル通信ニ使用セルモ概シテ歸巢時機後レ是又實用
 ノ機會稀少ナリキ。(四)ノ飛行基地ヨリ母艦ニ對スル通
 信ニハ最モ有効ニシテ各所ニ於テ基地ヲ設置スル毎ニ
 訓練ヲ兼ネ實用通信ニ利用シ特ニ其巨商カ牛旗
 信號ノ有効限度ヲ越スルカ如キ場合ニハ其効果ノ大ナ
 ルモノアルヲ認メタリ

要スルニ其價值トシテハ(四)ノ場合ニ有効ナルヲ認メ得レ共

其他ノ場合ハ實用ノ機會アルモ軍艦ノ能力不足ナルヲ以テ其効果ヲ信賴シ得ス從テ特設航空母艦ニ於ケル軍艦ノ價值ハ僅少ナルモト認ム

四 本艦ノ現状

本艦ノ乗員ハ特務艦編制ヲ以テ艦隊航空任務ニ服セルヲ以テ常ニ人員ノ不足ヲ感シ作業ニ追ハル、状況ナルヲ以テ専門的ニ軍艦ニ關係セシムハギ兵ト雖時々他ノ事業ニ從事セシメサル可ラサル場合アリ又之カ指導ニ當ルハギ士官モ本務ニ逐ハレテ周到ナル監督ヲナシ得サル状況ニアリ故ニ特ニ人員ノ増加ヲ見サル以上充分ナル効果ヲ豫期スル能ハサルナリ

ハ 結論

前記ノ如キ現状ヲ以テ之カ訓練並實用ニ努メタル

モ現状ヲ以テスルハ軍鳩ノ能力不足ニシテ今日ノ通信
ヲ補助セシムルニ足ラス 其價値少ナキモト認ム

然レ共今直ニ之ヲ以テ其價値ヲ断定スルハ稍早計
ニ失スル嫌ナキヲ保セス

即チ本艦裝備ノ現鳩舎位置及据方ニ稍欽陥ア
ルモノ如ク又人員ノ不足ハ樹員ヲシテ專念之ニ鞅掌
セシムル能ハサリシ点アリタレバナリ故ニ十六年度ニ於テ更ニ
前記ニ項ヲ改善増員シ實驗ノ上艦上ニ於ケル軍鳩價
値ヲ決定スルヲ妥當ト認ム

認